

< 教育活動報告 >

**本校学校行事の現状と今後の期待**

学校長 丸 昇

今年も5月の新入生市内施設見学に始まり、7月の上川・宗谷地区看護学校親睦体育大会(スポーツ交流会)全学特別講演会、8月の学校祭、9月のことぶき大学交流会等、多くの学校行事が行われました。他に教育課程と密着した関連行事もあり、各々本校の特色ある教育活動となっています。3年制専門(修)学校の履修内容は密度が高く、1~3年生まで殆ど毎日1~4講目の講義・実習が組み入れ、決してゆとりある状況にはありません。

近年、事前・事後、渉外業務と多くの時間と労力を要する学校行事を見直す動きがあり、スポーツ交流会も参加校は1校減の4校となりました。本校も外部講師との調整を要する学内授業及び年間にわたる臨地実習等との関連で、その時間の確保は容易ではありません。

このような中、長年学校行事を実施しているのは、教育指導には、知識・技能のみならずより全人的な人格の陶冶が求められ、そのために学校行事を通じた幅広い教育作用の果す役割が欠かせないと考えられるからです。特に、人間を対象とする医療・看護に携る看護師の育成には、講義や実習に加え多様な場や機会における望ましい集団活動や実体験を通じた人間的成長・発達が強く求められることは言うまでもありません。

スポーツ交流会で全力の汗を流すひたむきな姿、学校祭の前日夜・当日朝の懸命な準備、学生交流発表会の溢れる歓喜、模擬店・縁日の来場者への笑顔の接待等は、学生会の自主・自律活動の真骨頂です。また、ことぶき大学交流会は、お年寄の昔話や若者への期待に耳を傾け対話を深め、高齢者理解のみならず対人関係能力向上の貴重な機会となっています。

今後も、地域と一層の連携・協力を深めながら、人間的な触れあいや学生の主体的活動を大切に、学校生活に活気と潤いを与える学校行事を重視していきたいと考えています。

**第1学年 「体験学習」(9/10 富良野自然塾)に参加して**

\*「実体験からの学び」の感想をアンケートの一部を抜粋して掲載します。

木を植えるというなかなかできない貴重な体験ができました。46億年の歴史を歩いてたどるコースでは、人間が誕生し今のような暮らしやすい世の中になるまで46億年を24時間に例えると数秒で、長い年月をかけつくりあげてきた地球をものすごい勢いで壊していると考えると、地球に優しい生活をするべきだと考えさせられました。

寒かったけど貴重な体験でした。知識だけでなく実際自分の目で見て感じる事が何より大切で自分の中に入ると改めて考えた。自分の五感をもっと大切にしたいです。

裸足で歩いたのが久しぶりでよかった。このような機会でなかったら、山道を裸足で歩くことは今後ないと思う。自然を肌で感じる事ができた。

内容はとてもわかりやすく楽しかったです。地球の歴史はとても長いなーと改めて思いました。自分たちの老後の地球環境が少しでも今と変わらないようにするために資源のムダ使いを少しずつやめていこうと思いました。あと、とても寒かった。

・・・ SCHEDULE ・・・ 10/19～12/18の行事・動向(含終了)

10/19(月)～11/6(金) 3年連続実習6クール目

10/16(金) 2年成人 実習終了

10/22(木) 23(金) 1年看護技術発表会                      10/27(火) 第2回就職説明会

11/9(月)～27(金) 1年基礎看護学実習

11/11(水)～12(木) 3年ケーススタディ発表会

11/18(水)～20(金) 3年研修旅行

11/19(木) 富良野看護専門学校推薦入学試験

11/30(月)～12/18(金) 3年統合実習

耳よりヘルシー HEALTHY トピックス

**寒い冬に備えて「風邪・インフルエンザを予防しよう」**

冬の健康の難敵は風邪、またインフルエンザは怖い病気。普通の風邪はのどの痛みや鼻汁、くしゃみ、発熱などですが、インフルエンザはウイルス感染で起こり、38 以上発熱して肺炎を伴うなど重症になることもあります。従前のA、B、C型等と抗原性が大きく異なり急速に蔓延し甚大な影響を与えるものを新型インフルエンザと呼んでいます。

その予防の有効策として、・流行前のワクチン接種 ・「咳エチケット」(人に向けない、マスク)・外出後の手洗い等(アルコール消毒)・適度な湿度(50～60%)保持 ・十分な休養とバランスのとれた栄養摂取 ・人混みや繁華街への外出の控え が挙げられます。

具合が悪ければ早めに医療機関を受診、安静・休養、水分、睡眠を十分にとり何より抵抗力のある体調を維持する望ましい生活習慣が大切です。(参考;厚生労働省 web Q & A)

+++

あ・ん・て・な

ANTENNA

+++

**「ジェネリック医薬品」(generics)の基礎知識** (\*generic(英)「一般的な」)

「ジェネリック医薬品」(後発薬)は、先発(新)薬の特許が切れた後、同じ有効成分を同じ量含み、同じ効果が得られるように造られた薬で、研究開発や臨床試験等にかかる費用が抑えられるため、一般に患者に処方される段階では新薬に比べて3～5割安い。国はその使用率を2020年度に80%まで高める目標を掲げ、道も普及の態勢を整えている。

内服薬、貼り・塗り薬、点鼻・眼薬もあり、使う量や期間によって医療費負担の軽減効果が高まる。また、形などを工夫したものもあって「使用感」(飲んだ感じ、肌触り等)の違いを感じる場合もあり、実際にジェネリック医薬品の使用を検討する場合は、主治医や薬局の薬剤師に希望を伝え納得する選択が大切である。(参考; H27.8.5、10.7付道新記事)

**ささやき S & T ・・・ 学生の 教員の みんなの声**

S: 長いようであつという間だった成人 実習も一段落となり、今後はカンファレンスやテストに向かう時期となりました。自己課題と向き合いつつ、更に精進していきたいです。(2年A.S) S: 一児の母として学生として、手を抜きながらも、この7ヵ月間頑張ってきたように思います。沢山の人の支えて頂き、こうやって夢に向かって学ぶことができ幸せです。(1年 河野りさ子)

T: 3年生は最後の各論実習中、2年生は成人実習が終わり、1年生は基礎実習が目前に控えています。各学年の学びの集大成に向けて、元気いっぱい頑張りたいと願っています。(教員 関根)